



ほこつき
樺衝神社

亀居山に鎮座する延喜式内の古社である。中世より鹿島神宮と呼ばれていたが、明治3年に樺衝神社の社名に改称された。建物はケタ3間、ハリ間3間の切妻づくりで、いわゆる流造3間社である。本殿は、県の重要文化財に指定されている。



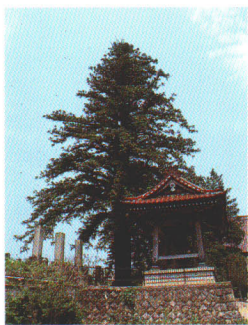
石背国造神社

明治4年(1871)、国造戸上神社と諏訪大明神が合祀されて今の称号になる。古文書などが数多く収蔵されており、石背文庫として郷土史家に珍重されている。



護真寺

観応2年(1351)本禅等訳和尚が開山したと伝えられる。宝物のひとつ、不動明王画像を毎年1月28日に開軸する。本堂にある「木造宝冠釈迦如来坐像」は開山前後の作と伝えられ、県指定重要文化財に指定されている。



永泉寺の広葉杉

杉に酷似していることから別名カントン杉とも呼ばれている。樹齢は約450年と推定され、直径1.3m、高さは約38mある。温暖性の植物で、寒い東北地方で成長するのは珍しく、県の天然記念物に指定されている。



長沼城址の桜

文応元年(1260年)に長沼中納言隆時が城を築いたといわれているが明確なことは分かっていない。平坦地から約30mの高さの自然石よりなる丘陵にある城址は、陽春の4月には、山桜、ソメイヨシノ、彼岸桜など300本の桜でおおわれ、人の目を楽しませる。



古館の桜

樹齢300年以上と推定される紅枝垂桜は、県内でも有数の巨木。高さは約17m、幹囲4.4m。4月下旬の桜の季節には多くの花見客で賑わう。県指定天然記念物。



護真寺の桜

観応2年(1351)に護真寺開祖・本禅等訳和尚が開山の折に手植えたものといわれている。樹齢400年の枝垂桜で高さは11.5m、幹囲4m。県の天然記念物に指定されている。

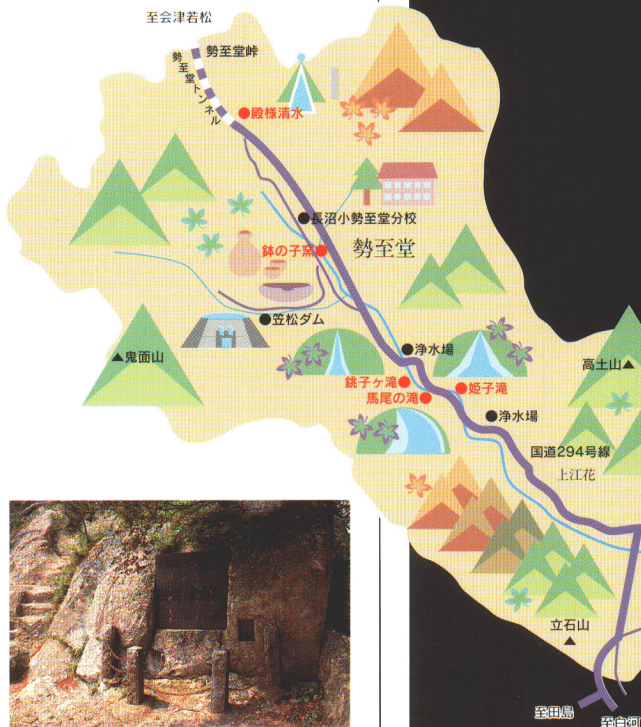


護真寺の木造宝冠釈迦如来坐像

護真寺は横田にある臨濟宗寺院。釈迦如来坐像は、像高43.2cmの檜材寄木造り、垂下式、彩色の像で後期宋元様式をとどめる。本寺開山の観応2年(1351)前後の作と推定されている。(県重要文化財)

藤沼湖

昭和12年着工、13年の歳月を投じ完成した人工湖。風光明媚で公園として整備されている。湖のほとりに藤の名所の藤沼神社があり、丘陵の山ツツジや山桜も咲き誇る。公園内には、藤沼温泉「やまゆり荘」や、水と緑のふれあいランド(コテージ村とオートキャンプ場)があり、長沼の自然を満喫するのに絶好の環境だ。



中山義秀「碑」の文学碑

「厚物咲」で芥川賞を受けた中山義秀(1900~1969)の代表作は、長沼町を舞台として祖父兄弟の決闘を描いた「碑」。義秀の祖先が長沼の陣屋侍であったことから、その文学碑が長沼城址登り口の大岩壁に建立され、「山間の小さな城下町に／初秋の風のおとづれを／聞くやうになつた“碑より” 中山義秀」と刻まれた黒みかけ石がはめ込まれている。



長沼町歴史民俗資料館

田園の中に立つ、白壁・蔵づくり風の美しい建物は、「山間の小さな城下町」をイメージ。古くは八千年前の遺跡出土品から、江戸時代の長沼城の古図、明治時代の高札、大正から昭和にかけての町の風景・風俗を写した写真など、展示内容は幅広い。また、長沼とゆかりの深い芥川賞作家・中山義秀コーナーも設けられている。

観光物産